

歴史研究所

The Iida City Institute of Historical Research

史料で読む

飯田・下伊那の歴史

4

満洲移民・ 青少年義勇軍

飯田市歴史研究所



令和7年3月刊行

史料で読む飯田・下伊那の歴史4『満洲移民・青少年義勇軍

はじめに

飯田市歴史研究所は、平成14年10月に準備室が開設され、平成15年12月に正式に発足した。

「現在及び未来の市民のために、歴史的価値を有する記録を収集し、保存して、広くその利用に供するとともに、歴史、文化等を科学的に調査研究して、これを叙述し、もって市民の教育、学術及び文化の向上発展並びに活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ことを目標として、調査研究・教育普及・市誌編さん事業を軸に取り組んでいる。

1 沿革

平成9年4月	市制70周年に向けた市誌編さん事業開始
平成13年4月	事業の見直しを決定
7月	飯田市長から飯田市誌編さん事業有識者会議に対し、飯田市誌編さん事業について諮問
平成14年4月	飯田市誌編さん事業に関する答申
8月	飯田市誌編さん事業 今後の方向（中期的計画）について
9月	任期付研究員条例制定
10月	地域史研究事業準備室設置 第1回地域史研究集会「語りつぐ飯田・下伊那の歴史」
平成15年10月	飯田市歴史研究所条例制定
12月2日	飯田市歴史研究所開所
平成17年3月	貴重書庫室整備
平成19年7月	飯田市歴史研究所実績報告書（2003－2006）作成（公表）
平成20年3月	飯田市歴史研究所第2期中期計画の策定（公表）
平成22年11月	『飯田・上飯田の歴史』（仮題）刊行計画の策定（公表）
平成24年6月	飯田市歴史研究所実績報告書（2007－2011）作成（公表）
7月	飯田市歴史研究所第2期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
8月	飯田市歴史研究所第2期実績の外部評価報告（公表）
9月	『飯田・上飯田の歴史』上巻刊行
12月	飯田市歴史研究所第3期中期計画（案）についての市民意見の公募
平成25年2月	飯田市歴史研究所第3期中期計画の策定（公表）
3月	『飯田・上飯田の歴史』下巻刊行
平成28年8月	飯田市歴史研究所第3期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
8月	飯田市歴史研究所第3期実績の外部評価報告（公表）
12月	飯田市歴史研究所第4期中期計画（案）についての市民意見の公募
平成29年4月	飯田市歴史研究所第4期中期計画の策定（公表）
9月	歴史研究所移転（旧鼎東保育園）
令和2年8月	飯田市歴史研究所第4期実績の自己点検・内部評価の実施
9月	飯田市歴史研究所第4期実績の外部評価報告
令和3年1月	飯田市歴史研究所第5期中期計画（案）についての市民意見の公募
4月	飯田市歴史研究所第5期中期計画の策定（公表）
令和6年2月	飯田市歴史研究所設立20周年ワークショップ「地域の歴史を未来へ引き継ぐ」を開催
7月	飯田市歴史研究所第5期実績の自己点検・内部評価の実施
9月	飯田市歴史研究所第5期実績の外部評価報告
令和7年1月	飯田市歴史研究所第6期中期計画（案）についての市民意見の公募
3月	飯田市歴史研究所第6期中期計画の策定（公表）

2 施設の概要

〔場所〕 飯田市鼎下山538番地 〔構成〕 交流・閲覧フロア、研修室、研究室、事務室、書庫

3 運営組織（令和7年4月1日現在）

所長 副所長

研究部 研究部長(所長兼務 会計年度任用職員)、研究員3（正規職員1、任期付職員2）、
特任研究員2(会計年度任用職員)、事務補助3(会計年度任用職員)、顧問研究
員8（非常勤職員）、調査研究員8（委嘱）

総務係 総務係長、係員3（正規職員1、会計年度任用職員2）

4 令和6年度 事業報告

1. 調査研究活動

（1）研究計画に基づく研究活動

研究計画に基づき基礎研究及び基礎共同研究（基盤調査・課題研究・単位地域研究）を行う。

①基礎研究

研究員が個人で遂行する研究。研究員は毎年研究計画書を作成・提出し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則1年間。

研究テーマ	研究者
飯田・下伊那近代の主なあゆみをまとめる	伊坪 達郎（研究部長）
森本州平日記を読む	加藤 陽子（顧問研究員）
国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」・「郡衙」）と古代寺院（「評寺」・「郡寺」、「定額寺」）の研究	田島 公（顧問研究員）
近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究	多和田 雅保（顧問研究員）
小学校の設置運営と地域の関わり 一日誌類の分析を中心に―	多和田 真理子（顧問研究員）
飯田下伊那の農協における諸活動Ⅲ	安岡 健一（顧問研究員）
山里に生きた人々の意識 ―身分と職分に注目して―	吉田 ゆり子（顧問研究員）
近世信州伊那地域における村社会の構造 ―座光寺村を素材として― 近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通	羽田 真也（研究員）
近現代飯田・下伊那における地域経済と資源	伊藤 悠（研究員）
明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元	岩田 会津（研究員）
幕末明治大正期、下伊那の文化的活動とその展開	竹村 雄次（特任研究員）
樽木役の負担に関わる諸問題 2	前澤 健（特任研究員）
飯田・下伊那の経済・経営史的研究	太田 仙一（調査研究員）
飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内 雅人（調査研究員）
養蚕地帯の地域社会構造と主体形成	田中 雅孝（調査研究員）
近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究	千葉 拓真（調査研究員）
興亜教育の実態と満蒙開拓青少年義勇軍の送出 ―下伊那を中心に―	原 英章（調査研究員）
伊那街道における歴史的景観の持続再生に向けた総合的研究	福村 任生（調査研究員）

満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説	本島 和人 (調査研究員)
青年会及び、青年運動の研究	栗谷 真寿美 (市民研究員)
飯田下伊那の戦時を読み解く ー地域の軍事郵便資料調査をととしてー	上河内 陽子 (市民研究員)
近世清内路の社会構造	坂本 広徳 (市民研究員)
戦前の下伊那労働運動史	清水 迪夫 (市民研究員)
ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」	壬生 雅穂 (市民研究員)

②基礎共同研究

研究員や特任研究員が研究代表者となって研究組織を構成し、共同で遂行する研究。基礎研究同様、研究計画書を作成し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則2～5年間。

基盤調査	A	史料所在状況調査	羽田 真也 (研究員)
	B	史料現状記録調査	羽田 真也 (研究員)
	C	オーラルヒストリー調査	伊藤 悠 (研究員)
	D	歴史的建造物調査	岩田 会津 (研究員)
	E	歴史的公文書調査	羽田 真也 (研究員) 伊藤 悠 (研究員)
課題研究	A	地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築	多和田 真理子(顧問研究員)
	B	山里の分節的把握 ー阿智村清内路を素材としてー	坂本 広徳 (市民研究員)
	C	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	吉田 ゆり子 (顧問研究員)
単位地域研究	A	飯田・上飯田	多和田 雅保 (顧問研究員)
	B	座光寺	羽田 真也 (研究員)
	C	川路	羽田 真也 (研究員)
	D	三穂	前澤 健 (特任研究員)
	E	松尾	伊藤 悠 (研究員)
	F	南信濃	岩田 会津 (研究員)

(2) 飯田市地域史研究集会の開催

第21回地域史研究集会 9月7日・8日 会場：飯田市役所会議室 参加者延べ137人
参加者内訳9/7：会場76人・オンライン21人 9/8：40人

国史跡指定10周年記念 恒川官衙遺跡研究の最前線 ー浮かびあがる古代伊那郡の役所〈伊那郡衙〉ー			
9/7	講演	文献史料から見た史跡恒川官衙遺跡 ー伊奈評衙の成立・評寺の建立と伊那郡衙の機能ー	田島 公(顧問研究員)
	報告	史跡恒川官衙遺跡 正倉院発掘調査の成果	羽生 俊郎 (飯田市教育委員会)
	講演	郡衙正倉にみる在地の建築技術	海野 聡(東京大学大学院)

	報告	恒川官衙遺跡と座光寺の歴史文化	田口 博人 (座光寺 歴史に学び地域を たずねる会)
9/8	現地見学会	飯田市考古博物館 恒川官衙遺跡	

(3) ワークショップの開催

4/20 (土)	松下家文書で読む不二道・飯田	会場：飯田市役所会議室 参加者：会 28 on11 計 39 人
	『松下祐輔氏所蔵 不二道等関係文書』刊行の趣旨と概略	竹村 雄次 (特任研究員)
	伊那谷の富士信仰と松下千代 ―江戸から明治へ―	宮崎 ふみ子 (恵泉女学園大学名誉教授)
	不二道信者の行と信州信者の分布	竹村 雄次 (特任研究員)
	不二道、実行教、実行会の系譜	栗谷 真寿美 (市民研究員)
	昭和戦前期の飯田商工業、伊原五郎兵衛の中央線誘致運動	伊藤 悠 (研究員)

7/20 (土)	昔の「声」を聞いてみよう ～上郷有線放送の三六災害特集から～	会場：上郷公民館講堂 参加者：会 15 on1 計 16 人
	地域メディアがつくる「わたしたち」の歴史	安岡 健一 (顧問研究員)
	番組を聴く 昭和 36 年 年末特別番組 災害特集ほか	

(4) 定例研究会の開催

開催日	内 容	担 当	場 所	参加者
4/27	寛文・延宝期の下条領の編成と変化 ―脇坂飯田藩領の村落を中心に―	前澤 健 (特任研究員)	歴史研究所	6 人
6/15	近代製紙業における労働者編成 ―王子製紙遠山進出を事例として―	太田 仙一 (調査研究員)	歴史研究所	10 人
10/26	丸山教、実行教・実行会と報徳社 ―明治期下伊那農村の信仰と思想―	竹村 雄次 (特任研究員)	歴史研究所	6 人
11/16	大正期の下伊那における入会権解消 ―野底山をめぐる上郷と東野―	伊藤 悠 (研究員)	歴史研究所	7 人
12/14	明治 20 年代上郷地区の地籍図に基づく 天竜川沿線の景観構造	岩田 会津 (研究員)	歴史研究所	8 人
2/8	近世大平街道における馬稼	羽田 真也 (研究員)	歴史研究所	13 人

(5) 史料研究ノート

開催日	内 容	担 当	場 所
11/29	松尾支所文書『明治十九年ヨリ 内達 内論 内申 物綴込』より丸山教の下伊 那伝播とその対応	竹村 雄次 (特任研究員)	歴史研究所
1/10	百花園建築の構成と特徴	岩田 会津 (研究員)	歴史研究所
2/27	「伊那電車鉄道株式会社 解散理由書」 (明治 40 (1907) 年)と「帝国銀行会社 要録 (大正 9 年 [1920] 版)」	伊藤 悠 (研究員)	歴史研究所

3 / 7	飯田歌舞伎座に関する「仮約定書」「賃借証」「廃業届」「廃場届」「免状」	竹村 雄次（特任研究員）	歴史研究所
-------	-------------------------------------	--------------	-------

（６）飯田市歴史研究所年報の編集・刊行

『飯田市歴史研究所年報』第 22 号

分 類	テ ー マ	執筆担当者
特集「飯田下伊那の学 制と地域社会―「人 づくり」から「ひと なる」へ―	趣旨説明 特集「飯田下伊那の学制と地域社会 ―「人づくり」から「ひとなる」へ―」によせて	多和田真理子
	学校と地域の関係史 ―地域にとっての学校／学校にとっての地域―	木村元
	明治初期の学校世話役 ―小学校の設置・運営と地域社会―	多和田真理子
	地域と共に歩む下伊那農業高校	遠山善治
	松下千尋における青年教育の可能性	田中雅孝
	満州開拓慰霊碑が子どもたちに遺したもの ―千代小学校 6 年生の学び―	坂下力
	記念誌発行の意義と学校に残したい資料について	田添莊文
	【自由論題報告要旨】飯田における百済系土器とその意義	春日宇光
	【自由論題報告要旨】明治・大正期の松川入における河川と山林利用	伊藤悠
小特集 「地域の歴史を未来 へ引き継ぐ ―飯田下伊那地域 史研究の現在―	趣旨説明 小特集「地域の歴史を未来へ引き継ぐ ―飯田下伊那地域史研究の現在―」によせて	羽田真也
	生きるための江戸時代史	多和田雅保
	歴史文化を活かした地域づくり ―座光寺の取組み―	田口博人
	建築史研究と地域	岩田会津
	【コメント】私の地域史研究のあゆみと飯田市歴史研究所	田中雅孝
研究ノート	【コメント】満洲移民研究の立場から ―歴史研究所設立と聞き取り・文書調査―	本島和人
	普通選挙初の県議選と下伊那地方の政治的方向	本島和人
史料で読む飯田・下伊 那の歴史 14	王子製紙で働く山林労働者の家庭と仕事 ―明治期における王子製紙の遠山進出に際して―	太田仙一
新刊紹介	土井麦穂『夕陽に對す 祖父の漢詩にみる満州開拓の日々』	本島和人
歴史研究所新刊紹介	『飯田・下伊那地域史料現状記録調査報告書 3 松下祐輔氏所蔵 不二道等関係文書』	竹村雄次
展示評	飯田市美術博物館文化トピック展示「飯田歌舞伎座 ―明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂―」	八木由美
飯田市歴史研究所 20 年間の活動記録(2)	飯田アカデミア	
	ワークショップ	
	地域史講座	
	歴史研究所刊行物	

歴史研究所 2023 年度の記録	飯田アカデミア、飯田歴研賞 2023、共同研究成果報告、 歴研ゼミナール・ワークショップの活動記録、 スタッフ研究業績、歴史研究所活動報告	
その他	飯田・下伊那地域に関する歴史・民俗関係 図書・論文・ 研究ノート目録、投稿規定、編集後記	

B5 版 235 頁 1C 400 部

（７）研究活動助成事業

飯田下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史全般の研究成果に対し助成を行い、地域史の研究を振興する。

申請件数 1 件 助成決定件数 1 件

研究課題	研究者名	備 考
戦後日本農村社会における地域開発 — 1970 年代の長野県飯田市龍江地区(旧下伊那郡龍江村)を事例として—	町田 良	京都大学学生

報告会 R7.2.22 13:30～15:00 於：歴史研究所研修室

（８）「飯田歴研賞 2024」表彰事業

飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰し、地域史研究の底辺を広げ、重層的な文化研究活動の環境を整える。

部 門	受 賞 作 品	受賞者
著作賞	『大正デモクラシーと地域民衆の自己教育運動 — 自由大学運動の研究 —』	山野 晴雄
奨励賞	『夕陽に對す 祖父の漢詩にみる満州開拓の日々』	土井 麦穂

2. 教育活動

（１）飯田アカデミアの開催

市民を対象に、大学教育レベルの学術講座を開講。より多くの市民が聴講しやすいよう多彩な講座を企画している。

開 催 日	内 容	講 師	場 所	参加 人数
6 月 22 日 23 日	日本古代の牧と馬	山口 英男 (東京大学名誉教授)	飯田市役所会議室	会 57 0n30 延 87
9 月 21 日 22 日	戦後の学校はどのように歩んできたか —人口・地域・教育の経験—	木村 元 (青山学院大学特任教授)	飯田市役所会議室	会 40 0n21 延 61
11 月 30 日	歴史資料散逸の要因と救い方 —長野県内での活動を通じて—	西村 慎太郎 (国文学研究資料館教授)	飯田市役所会議室	会 34 0n6 計 40
2 月 1 日	伊那谷にやってきた平田派国学者たち	三ツ松 誠 (佐賀大学准教授)	飯田市役所会議室	会 58 0n20 計 78

(2) 地域史講座

開催日	内 容	講 師	場 所	参加人数
9月14日	戦国時代の小笠原氏と飯田	村石 正行 (長野県立歴史館文献史料課長)	旧小笠原家書院	33人

(3) 講座：出前講座等

各団体、機関の要請に応じて対応

開催日	内 容	講 師	依頼先 会 場	参加人数
5月30日	江戸時代の座光寺と下伊那	羽田 真也 (研究員)	麻績いきいき大学 座光寺公民館	28人
7月7日	下伊那の旗本と山 ー伊豆木小笠原氏を中心にー	前澤 健 (特任研究員)	美博文化講座 飯田市美術博物館	40人
7月25日	日本・下伊那・鼎の民家建築	岩田 会津 (研究員)	鼎歴史を学ぶ会 鼎公民館	15人
7月28日	『下伊那史・誌』の始まりから現在	伊坪 達郎 (所長)	伊那谷地名研究会 飯田市美術博物館	22人
8月25日	第28回伊那谷地名講座 小笠原氏と伊豆木の地名	前澤 健 (特任研究員)	飯田中央図書館・ 伊那谷地名研究会 飯田中央図書館	40人
9月13日	ふるさと未来プロジェクト 飯田の歴史の概要	岩田 会津 (研究員) 前澤 健 (特任研究員)	緑ヶ丘中学校 同上	200人
10月12日	近世の上伊那の村々と樽木 ー木材をめぐる支配の変化ー	前澤 健 (特任研究員)	高遠町歴史博物館 伊那市高遠町地域 間交流施設	30人
11月9日	ふるさと巡り三穂	前澤 健 (特任研究員)	三穂公民館 三穂地区	30人
11月9日	時の駅講座 柿と樽木 ー江戸時代の高森の 人々の負担ー	前澤 健 (特任研究員)	高森町歴史民俗資 料館 同上	30人
12月6日	山村書院の出版と支えた人々 ー飯田下伊那の出版の広がりー	伊坪 達郎 (所長)	南信教育事務所飯 田事務所 飯田合同庁舎	50人
1月25日	学輪 IIDA 全体会ー公開セッションー ポスターセッション	羽田 真也 (研究員) 岩田 会津 (研究員)	飯田市大学誘致連 携推進室 ムトスぷらざ	150人
2月14日	「伊那谷の自然と文化」トーク セッション	岩田 会津 (研究員)	生涯学習・スポー ツ課 ムトスぷらざ	30人
3月29日	下條史学会学習会 三遠南信を結ぶ天龍川通船	前澤 健 (特任研究員)	下條史学会 コスモホール	20人

（４）歴研ゼミナール及び市民協働ワークショップの開催

歴史の研究方法を学ぶ通年講座。参加者が「ともに学ぶ」ことを重視。

科 目	内 容	開催日	担 当
近世史ゼミ	「飯田御用覚書」を読む	第２・第４ 水曜日	羽田 真也（研究員）
近現代史ゼミ	・「胡桃澤盛日記」を読む ・「現代日本の思想」を読む	第４土曜日	田中 雅孝（調査研究員）
満洲移民研究ゼミ	満洲移民（青少年義勇軍）の実態と送出 の背景及びその周辺についての検討	第１土曜日	本島 和人（調査研究員）
思想史ワークショップ	・『日本近代文学評論選昭和篇』を読む	第１・第３ 水曜日	自主開催（H24年10月 以降）元思想史ゼミ
建築史ゼミ	都市史文献の輪読 身近な空間についての発表	第３金曜日	岩田 会津（研究員）
地域史ゼミ	LYL 事件関連の史料読解	第２木曜日	伊藤 悠（研究員）

（５）市民研究員募集事業

市民研究員養成課程等による飯田下伊那の地域史を研究する人材育成を行う。今年度は市民研究員に応募があり、市民研究員候補として採用された。

（６）美術博物館との共同事業

- ・古文書講座 ゼロから始める古文書（美術博物館と分担）
令和６年度は研究所のスタッフが中心となり講座の運営を行った。
- ・「ワクワクびはくで夏休み」への出展 ８/11（日）
「古い建物の模型を作ろう」地域に残る特徴的な建物の模型を作るワークショップを３回（計１８組）行った。

（７）歴研ニュース発行

- ・市民や研究教育機関等に対し、歴史研究所の事業や出版物等を告知、紹介
Ａ４判４頁カラー及び電子データ、年６回 偶数月１日（No.129～134号）発行配信

（８）歴史研究・職場体験学習受入れ

- ・飯田東中学校 １名 ６月２６・２７日
- ・旭ヶ丘中学校 １名 １０月１６・１７日
- ・緑ヶ丘中学校 ３名 １１月５・６日

（９）地域連携・支援

- ・座光寺：歴史に学び地域をたずねる会との協働での古文書講座
- ・川路：百花園関島家文書の管理

３．市誌編さん事業

- ・史料で読む飯田・下伊那の歴史４『満洲移民・青少年義勇軍』の出版
Ｂ５版 ９３頁 １Ｃ ５００部
- ・『飯田市歴史研究所年報』第２２号の出版

4. アーカイブズ保存活用事業

(1) 書庫内への文書保管作業及び史料公開

私文書の調査。維持管理が難しくなった文書の引き取り（寄贈・寄託）。整理作業を経て目録等の公開を行った。

(2) 非現用公文書の移管

令和6年度に廃棄対象となった文書（非現用公文書）のうち、歴史的価値あるものを歴史研究所に移管し、目録作成作業後、押洞書庫に保管した。

(3) 学校史料所在調査

令和5年度に行った調査の残り分を行った。

5. 飯田市歴史研究所第6期中期計画策定

いいだ未来デザイン 2028(飯田市総合計画)及び第2次飯田市教育振興基本計画後期の取組の策定に合わせ、令和7(2025)年度から令和10(2028)年度を期間とする「飯田市歴史研究所第6期中期計画」を策定した。

【資料】研究集会及び教育・普及事業（各種講座等）への参加者数〔5年度及び過年度の実績〕

年 度	区 分	研究集会	アカデミア	ワークショップ	地域史講座	定例研究会	ゼミナール	合 計
令和6年度	開催回数	1	4	2	1	6	79	93
	参加者数	137	266	55	33	50	523	1064
令和5年度	開催回数	1	4	2	2	6	65	80
	参加者数	156	356	106	47	56	508	1,229
令和4年度	開催回数	1	4	3	2	6	87	103
	参加者数	244	170	142	60	67	548	1,231
令和3年度	開催回数	1	2	1	1	7	76	88
	参加者数	100	89	80	20	48	455	792
令和2年度	開催回数	0	2	—	4	7	62	75
	参加者数	0	34	—	120	81	433	668
令和元年度	開催回数	1	4	—	4	5	84	98
	参加者数	163	301	—	205	54	505	1228
平成30年度	開催回数	1	4	—	5	6	88	104
	参加者数	156	165	—	141	85	460	1,007
29年度	参加者数	88	130	29	204	91	598	1,140
28年度	参加者数	201	209	39	246	168	581	1,444
27年度	参加者数	127	175	20	118	138	1,022	1,600
26年度	参加者数	189	131	149	125	103	1,281	1,978
25年度	参加者数	251	160	60	159	66	951	1,647
24年度	参加者数	222	161	—	125	246	1,098	1,852
23年度	参加者数	163	132	—	163	54	525	1,037
22年度	参加者数	196	167	—	112	147	463	1,085
21年度	参加者数	170	302	—	112	62	455	1,101
20年度	参加者数	71	225	—	182	130	530	1,138
19年度	参加者数	104	127	—	148	43	430	852
18年度	参加者数	266	167	—	—	80	(878)	(1,391)
17年度	参加者数	118	161	—	—	—	(989)	(1,268)
16年度	参加者数	134	153	—	—	—	(779)	(1,066)
15年度	参加者数	170	167	—	—	—	—	337

※18年度以前のゼミ参加者数は登録人数と回数から算出

※22年度の研究集会には「伝統都市の比較史」共催円座を含む

※29年度以前は参加者数